

CASE 01 在宅避難

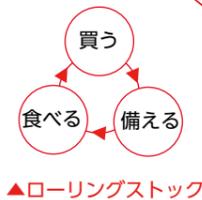
自宅の安全が確保できる場合は、在宅避難を検討しましょう。自宅周辺の浸水想定が3m未満の場合は、自宅の2階へ避難してください。

テレビやラジオ、町HP等で気象情報や防災情報などの最新情報をキャッチし続けましょう。



非常用備蓄品の準備を

災害時は、支援物資がすぐに届くとは限りません。3日～1週間程度過ごせる備蓄品を用意しましょう。普段から少し多めに食料を買い足して使い、使った分だけ買い足す「ローリングストック」がおすすめです。



▲ローリングストック

備蓄品の参考

- 水（飲用・生活用）
- 非常食
- ランタン
- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- ティッシュ

CHECK POINT

CASE 02 親戚・知人宅へ避難

安全な場所に住んでいる親戚や知人宅への避難を検討しましょう。避難所と異なり、不特定多数の接触を回避できます。避難する時は、避難先と事前に調整し、危険が迫ってからではなく、余裕を持って避難しましょう。親戚・知人宅だけではなく、通常の宿泊料がかかりますが、ホテルや旅館などの宿泊施設へ避難する方法もあります。

非常用持出袋の準備を

避難先で2～3日過ごすことを想定して準備しましょう。また、家族に妊婦や乳幼児、高齢者がいる場合、その方に必要な物もそろえてください。



持出品の参考

- 飲料水・非常食
- 現金
- 保険証・免許証
- マッチ・ライター
- 懐中電灯
- スマホ・ラジオ
- モバイルバッテリー
- タオル・着替え
- 常備薬・持病薬
- マスク
- 除菌シート
- 笛

CHECK POINT

街中でも避難所を確認



水害リスクを日常生活でも認識し、いざという時の避難行動に役立ててもらうため、街中に想定浸水深と付近の避難所を掲載した「まるごとまちごとハザードマップ」を設置しています。

CHECK POINT

■避難所のこと

開成小学校・開成南小学校・文命中学校にはペットと一緒に避難することができます。ただし、動物アレルギーの方がいるかもしれないので、避難所で人とペットが同一の空間で居住することはできません。人とペットの居住区を分けての対応になります。

■万が一の時

町は小田原獣医師会と「災害時の動物救護活動に関する協定書」を締結しています。災害時、ケガや病気をした動物の治療や避難所での動物の健康相談など小田原獣医師会の支援を受けられます。

災害時のペット同行避難の詳細は
こちら▼



災害時のペットのこと

家族の一員でもある大切なペットを守るのは、飼い主さんだけです。日ごろから災害対策について考え、しつけや物品の準備をしましょう。

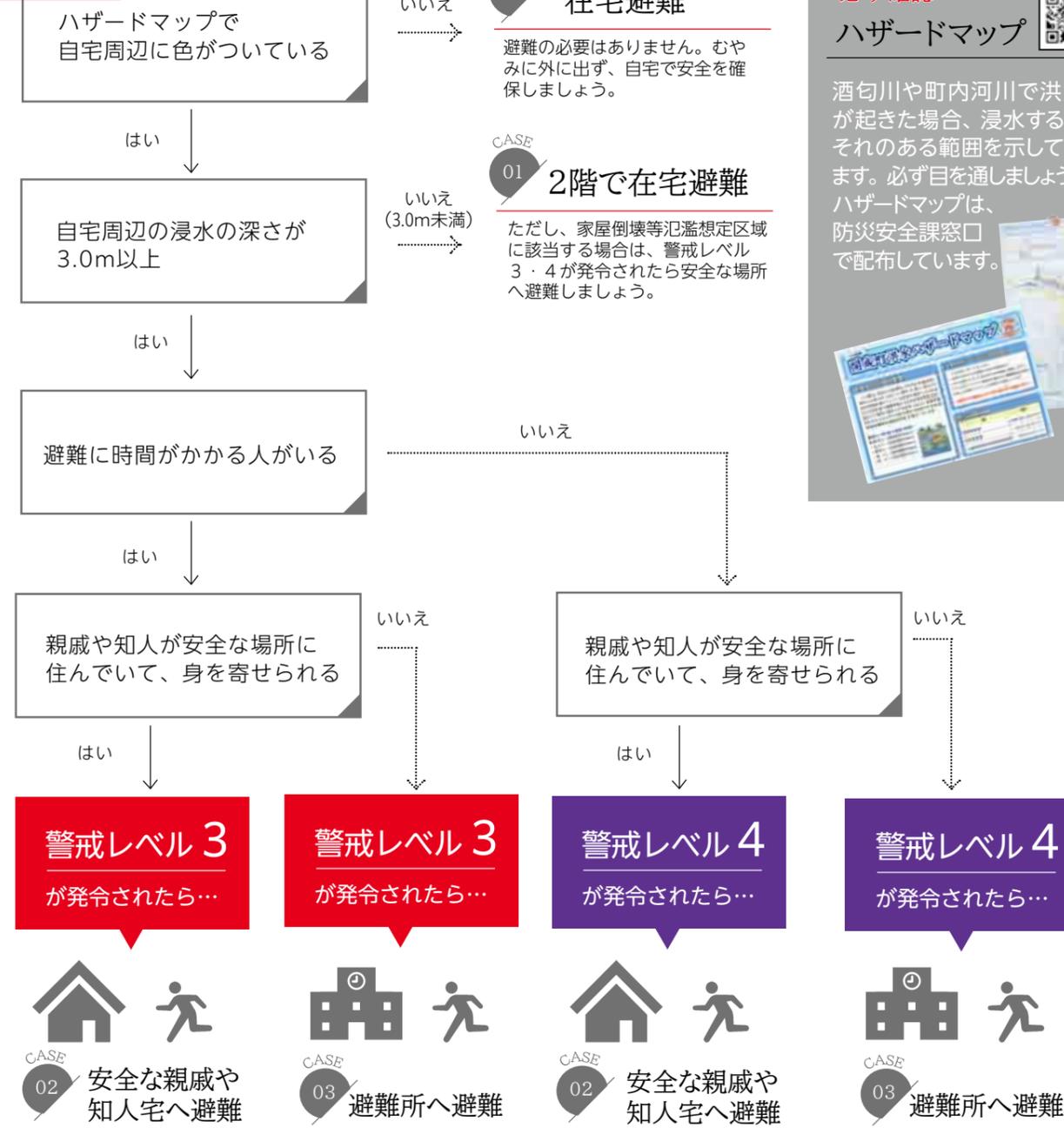


避難行動判定フローで確認！

水害が迫った時、あなたはどうか。

避難とは、「難」を「避」けること。安全を確保することが一番の目的です。避難先は町が指定する避難所だけではありません。コロナ禍の今、感染リスクを考慮し、適切な避難先を事前に検討しましょう。

START



必ず確認

ハザードマップ



酒匂川や町内河川で洪水が起きた場合、浸水するおそれのある範囲を示しています。必ず目を通しましょう。ハザードマップは、防災安全課窓口で配布しています。

